

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A 中学校)

学期に 1 回、希望する先生と 5 分ほど話す時間を設定した。生徒にとって、何か困ったときに相談できる相手を増やすことができ、教員にとっても生徒の様子を観察することのできる取組となっている。また、悪口や暴力、無視、からかいなどのいじめ発見のほか、「心配なこと、不安なこと」について記述できるアンケートを年 5 回実施している。

【取組 2】(A 中学校)

保健委員の「歯磨きキャンペーン」や学級委員の「テス勉アドバイザー」など委員会企画を行い、学年フロアにポスターを掲示したり呼びかけを行ったりしている。終業式では各委員会の取組を振り返って報告する場があり、各委員長は責任をもって発表を行うなど、生徒が主体となり委員会活動に取り組んでいる。

運動会では各学年縦割りで色ごとに団結して応援・演技を行った。特に伝統として例年行っているソーラン節では、3 年生が下級生を引っ張り、頑張る姿を見せることで下級生にとって憧れる存在となった。学年を問わず、相互に認め合う関係づくりを行っている。

【取組 3】(B 中学校)

学校として、生徒の学習の自己調整力を高める授業づくりを研究テーマとして設定している。そのため研究授業を参観し、協議会で「生徒指導の実践上の視点」から助言を行った。また、普段の授業を見学し、気付いた点について各担当教員と意見交換を行った。9 月の研修でも「生徒指導の実践上の視点」を踏まえて具体的に意識すべき点を共有した。

B 中学校の取組を振り返って

【授業での取組から】

- ・学習の要点や評価の規準が記載された冊子の配布
- ・少人数・ペア・グループ学習
- ・問を起点にした授業展開
- ・授業の流れや今後の見通しが理解できる板書・掲示
- ・帯活動でいつでも変わらない授業の流れ
- ・作品づくり、作品の掲示

【取組 4】(C 中学校)

夏季休業日中の準備出勤日に研修時間を設定し、20 分ほどの研修を行った。内容として、「①不登校対応における三段階」について、「②不登校対応巡回教員ができる業務」について、「③生徒意識調査の結果を踏まえた 1 学期の取組の振り返り」の 3 点について話した。

また、各校で研修の日程を複数回設けることが難しかったため、「巡回通信」を発行することとした。区内巡回教員 2 人で連携して、研修キットの内容や自主研修の内容などから材料を集めて記事にし、毎月発行することで、不登校に関する知識や情報を区内中学校に還元した。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（D中学校）

校長、不登校対応コーディネーター、都 SC、SSW、校内別室指導員、学年教員、不登校対応巡回教員が参加し情報共有と支援の検討を行っている。現在の状況、会議での対策などが全体で共有できるよう、ファイルを回覧し、直接会って情報交換のできない区 SC とともに情報の漏れがないよう連携している。

アウトリーチによる支援（A中学校）

長期欠席の生徒や休みが増えてきた生徒の家庭へ担任や学年教員、SSW と共に訪問した。登校の働きかけや、学習や進路指導に関する支援等について、担任や不登校対応コーディネーターと綿密な相談を行い進めている。

校内別室における支援（E中学校）

別室生徒の取組を職員室で共有できるよう、生徒が記入する学習記録表を不登校対応巡回教員から学校に提案した。生徒にとって自分が取り組んだことが目に見える形で蓄積され、教員や指導員から励ましの言葉があることで自己肯定感も育まれていくと考えられる。また、教員側も生徒の困っていることや頑張っていることを把握しやすくなった。

今週やりたいこと		月 日		火 日	
		月 日		月 日	
5	14:20 ~ 14:30	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()
6	14:30 ~ 15:20	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()	国・数・英・理・社・音・美・体・技・家・他()
一日の振り返り・伝えたいこと					

デジタル機器を活用した支援（A中学校）

授業支援ツールで時間割を投稿したり、オンライン授業の配信を行ったりしている。また、不登校傾向のある生徒に関しては個別チームを作って学年の教員や別室指導員が所属し、個別の連絡を共有したり、投稿を行ってコミュニケーションを取ったりしている。

関係機関との連携（全巡回担当校）

教育支援センターと連携し、教育支援センター、オンライン教育支援センターを利用している生徒の情報について聞き取った。また区内を中心にフリースクールを訪問し、活動内容について聞き取った。これらの情報は「巡回通信」を通じて区内の教員に提供した。

成 果

巡回担当校における新たに不登校となった生徒の割合は5校平均0.9%程度に抑えられている。支援会議において、未然防止の取組を協議し、実効的な手だてを計画している。

課 題

不登校対応巡回教員と連携を密に行うことで、不登校支援に係る研修計画の策定や面談や家庭訪問を計画的に実施していく。